



新春放談 町のちからを高める

新春を迎え、新たな年のスタートに、当別町特別顧問の3名の方にお集まりいただき、泉亭町長と、様々な角度から当別町についてお話いただきました。

当別町長 泉亭俊彦

当別町特別顧問 学校法人東日本学園理事長・北海道医療大学学長
(株)ロイズコンフェクト
新和グループ

廣重 力さん(写真:右)
山崎泰博さん(写真:中央)
新井 修さん(写真:左)

はじめに

泉亭町長 今日当別町の特別顧問の皆さんにお集まり頂きました。誠に有難うございます。

現在、社会経済情勢が急激に変化し、地方自治のあり方が問われています。皆様からこの数年間の町政執行と今後のまちづくりなどについて率直な意見をお聞かせください。

今、当別町は平成17年の春に策定した「行財政システム再構築プラン」に則って町政を執行しているところです。このプランは、多方面から注目されているところですが、特に策定にあたっては、重理事長さんに委員会の座長を務めていただき、とても感謝しております。

廣重理事長 私がプランづくりに携わったのは、平成16年10月から約半年間です。再構築プランは、当初から住民の意見を取り入れるという考えを基に多くの町民が集まってディスカッションを重ね作り上げたものです。私自身はお手伝いでしたが、良いプランができたと思っています。

まちの活性化

泉亭町長 新井社長さんから、最近の当別町を、外からどのような見方をされ、どう評価されているのかをお話しいただけますか。

新井社長 まちの活性化には、やはり商店街の魅力が欠かせないものと思います。魅力がないと人が集まってきたりせんから、賑わいも活性化も図られないと思います。

当別の商店街には、正直に言っても魅力が足りないと感じています。当別の店主の皆さんは、家業から事業への転換ということを、これまであまり意識されてこなかったように思います。大都市に隣接しすぎて難しいところも沢山あると思います。が、当別には大学や高校があり、JRや国道、道々などの交通の要衝でもありますから、店主の工夫次第でまちの活性化は可能だと考えます。

私事で恐縮ですが、私は、昭和57年に当別から札幌へ進出して事業を展開してきました。経営者として事業を拡大させ、安定させるために常に考えていることは、いかに優秀な『人材』を集めるか、その『人材』をどう育てていくかということですね。

やはり家業だけで満足してしまつと顧客のニーズを満たせなくなるので、店主の皆さんの意識改革が本当に必要な不可欠であると思います。当別は私の出生地でもあるので、是非皆さんに頑張っていたいただきたいと思ひます。

まちの付加価値

泉亭町長 私は、町長に就任以来、美しいまちづくりを掲げて町政を執行してきました。これは、ただ単に街をきれいにするというのではなく、当別の良さを活かせるまちづくりや人づくりが根底にあります。

昨年、ロイズの山崎社長さんの紹介でアメリカにあるチヨコレートで有名なハーシーという町を観て来ました。ここは企業城下町ですが、町全体を見渡せる丘があつて豊かさを感じました。

山崎社長さんから、そのようなところをお聞かせ願えますか。

山崎社長 ハーシーという町も田園地帯にあります。130年前には何も無いところでしたがミルトン・ハーシーが事業を起こし、会社を設立しました。そして、ゆとりと安らぎが感じられる文化的な街が形づくられていったと聞いています。

私も当別生まれですが、35歳のときに札幌でチヨコレートの製造販売の事業を起こし、資金無しで始めました。事業の拡大を目的に新しい工場を大美に求めましたが、この土地を選んだ理由は2つあります。1つは、この広い田園地帯で商品を作ることが商品に付加価値を与え、ブランド性のある商品としてアピールできると考えたからです。もう1つは従業員の確保です。400名の従業員のうち100名は地元当別、残り300名は札幌です。



JRや国道が整備されていて、通勤しやすいのが魅力の一つです。札幌とのアクセスがとても良く、また、大都市の至近にこのような口ケーションの良いところは、そうそう他にはありません。

泉亭町長 私は、ハーシーを訪れてみて、山崎社長さんが描かれている構想が良く理解できました。ハーシーは、文化の香りがする町で、美術館などはとても素晴らしい。当別にも地域に根ざした美術館や博物館があると、ステータスが高まるかと考えています。

若者の力

泉亭町長 現在、北海道医療大学の学生たちが、町内で福祉分野のボラ

ンティア活動を行い頑張ってくれています。中には、卒業後も当別に住み続け、NPOを立ち上げ福祉事業を展開している若者もいます。重理町長さんに人づくりも含めて、このあたりをお話ししてもらえますか。

●**廣重町長** 時代の移り変わりと共に、大学生の感覚も変わってきているようです。

最近、特に福祉を通して、大学の存在基盤は地元にあるという発想が非常に強くなったと感じ、とても良い方向に向かっていると思ひます。

北海道医療大学で学ぶ学生は、40%近くが本州から来ています。色々な地域や環境で育った若者の40%以上が、現在、当別で生活しています。

特に最近では、学生と町民とがイベントなど様々なところで交流し始めています。これからのまちづくりの上で、とても好ましい関係になってきたと感じています。

また、福祉ボランティアでは、長年にわたって学生たちが主体となつて、大学のキャンパスに身体の不自由な方々に参集していただき、身障者のためのオープンカレッジを開催しています。この間、ボランティア文化フェスティバルという全国的な大会において、この取り組みが評価され、グランプリを受賞しました。

医療大学の学生たちは、地域に溶け込み、個性的な活動をしています。言い換えれば、地元の人々の理解と協力がなければ、ボランティア活動は行えません。

そういう意味から、医療大学ではこれまで以上に大学のキャンパスを地域の人々が活用しやすい大学にしていきたいと考えています。

泉亭町長 私は、大学の知的資源は計り知れないもので、町政にとつても大きな影響力があると考えています。ですから、大学との連携は今後もさらに必要不可欠なものになると確信しています。その為には、一人でも多くの大学生に当別という「まち」を知ってもらい、まちの中に溶け込んでほしいと考えています。

当別の農業者が学生に農業を体験してもらおう面白い企画（農家ステイ）

を行っていますが、大学生には、是非、農家さんとの触れ合いの中から、町の魅力を感じ取ってもらい、貴重な学生生活の中で、当別でしか味わえない経験に付加価値が加わると考えています。

■ まちの魅力発掘を

泉亭町長 大学との連携は再構築プランの重点施策の一つに掲げていますが、この他に都市計画事業の推進やバス交通体系の確立を掲げています。

新井社長 よくタクシードライバーの方から「当別の街中へは入りづらく、よく道に迷う」と聞きます。

今、私の店舗（プレイランドハッピー当別店）前の駅前大通を整備されていますが、駅から国道275号まで一直線でつながり、町に來られる方が街中に入りやすくなります。ですから、この道路整備と合わせて沿道の利用を高めることが、町の活性化に必要不可欠であると考えますね。

泉亭町長 私も、そのように考えています。現在、道路拡幅に伴う建物の建替えが始まっています。平成19年には道路整備が完了しますので、街中の様子が一変してくると思います。

また、バス交通体系の確立では、町内でバスをそれぞれ運行している

事業者の一元化を図って、効率的で利便性の高いバス運行の実現を検討していますが、町と各事業者が協力し合うことよつて実現されるものです。これからのまちづくりは、行政主導ではなく、民間のノウハウをどんどん取り入れて進めなければならぬと考えています。

山崎社長 まちづくりに、住民がこの土地の潜在的な魅力を再確認していくことが必要ではないでしょうか。当別には北海道の原風景があり、田園地帯でチョコレートを作っていることが商品に付加価値をつけ、テイストとなつていのです。

私は、このことをコンセプトに事業を展開しています。

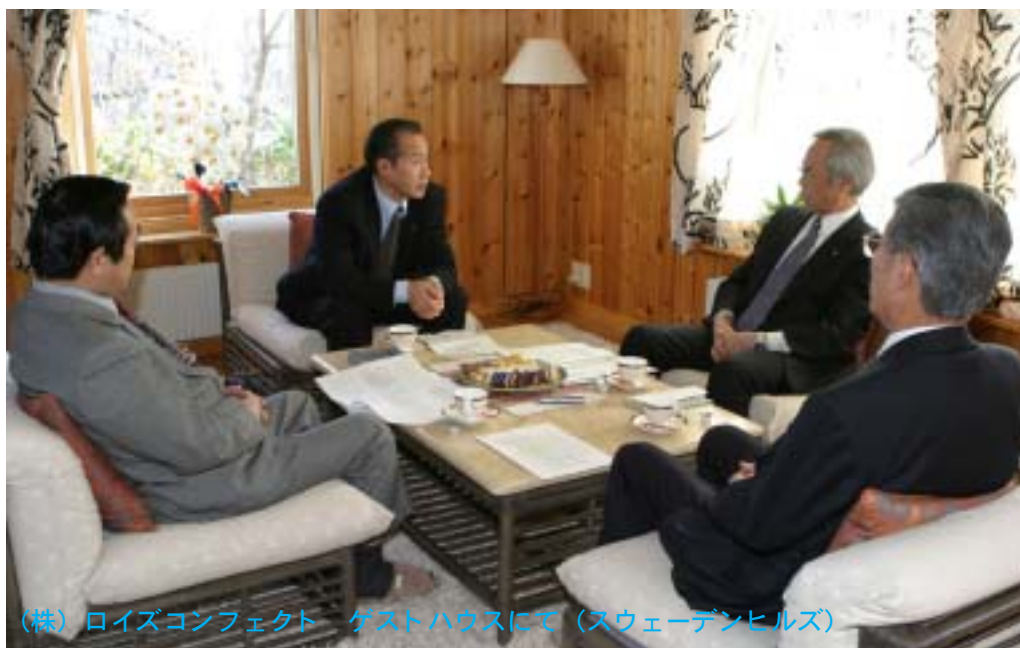
当別の潜在的な魅力を掘り起こしていくことが、まちづくりの原点ではないかと考えます。

泉亭町長 全国の自治体では、そのほとんどがまちを活性化させよう、発展させようともがいています。その為には、そこで住む、学ぶ、働く人々のエネルギーが必要です。

今日お集まりの皆様

は、大学や企業のトップとして、手腕を発揮されている方々ですので、今後とも当別のまちづくりに対して、それぞれの立場で培われてきた経験や知識を十二分にお貸し願えればとご期待しています。

今日は、本当に有難うございました。



(横) ロイズコンフェクト ゲストハウスにて (スウェーデンヒルズ)